



科研費
KAKENHI

主催：静岡大学翻訳文化研究会

静岡大学翻訳文化研究会『翻訳とアダプテーションの倫理』（春風社）出版記念

公開対談

演劇、変わり得ることへの希望

宮城 聡 × 本橋 哲也

原作から脚本へ、脚本から演出へ、演劇においてテキストはどう変容していくのか。

舞台公演を通じて観客は、そして世界は、どう変わっていくのか。

静岡を拠点に世界の演劇界に次々と衝撃を与えている SPAC 芸術総監督の宮城聡氏と、

シェイクスピアからミュージカルまで舞台芸術を幅広く専門とし、

『宮城聡の演劇世界』の共著もある本橋哲也氏が演劇アダプテーションの本質に迫る。

宮城 聡 (みやぎ・さとし)

1959年東京生まれ。演出家。SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督。東京大学で小田島雄志・渡辺守章・日高八郎各師から演劇論を学び、1990年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代のテキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出で国内外から高い評価を得る。2007年4月SPAC芸術総監督に就任。自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を次々と招聘、またアウトリーチにも力を注ぎ「世界を見る窓」としての劇場運営をおこなっている。2017年『アンティゴネ』をフランス・アヴィニョン演劇祭のオープニング作品として法王庁中庭で上演。他の代表作に『王女メディア』『マハーバーラタ』『ペール・ギュント』など。平成29年度第68回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。



© Takashi KATO

本橋 哲也 (もとはし・てつや)

1955年、東京都生まれ。東京大学文学部英文科卒業、英国ヨーク大学英文科博士課程修了。D.Phil. 東京経済大学教員。専攻はカルチュラル・スタディーズ。

著書に『宮城聡の演劇世界』（塚本知佳との共著、青弓社）、『ディズニー・プリンセスの行方』（ナガニシヤ出版）、『深読みミュージカル』（青土社）、『侵犯するシェイクスピア』（青弓社）、『ほんとうの「ゲド戦記」』（大修館書店）、『思想としてのシェイクスピア』（河出ブックス）、『カルチュラル・スタディーズへの招待』（大修館書店）、『本当はこわいシェイクスピア』（講談社選書メチエ）、『ポストコロナリズム』（岩波新書）など。

2019. 3/4 (月) 18:30 ~ 20:00 場所：あざれあ



静岡大学翻訳文化研究会『翻訳とアダプテーションの倫理』（春風社）出版記念

公開対談 宮城聡 × 本橋哲也

演劇、変わり得ることへの希望

日時：2019年3月4日（月）18:30～20:00

場所：静岡県男女共同参画センター あざれあ 第一研修室（4階）

（JR 静岡駅北口徒歩10分 〒422-8063 静岡市駿河区馬淵1丁目17-1 電話 054-255-8440）

定員：80名

申し込み：入場無料ですが、事前申し込みが必要です。Eメールもしくは電話でご氏名と参加人数をお知らせ下さい。

定員を超えた場合のみ、お断りの返事を差し上げます。

Eメール： honyakubunka@gmail.com

電話：054-238-4523（今野。不在の場合はお名前と電話番号をお吹き込み下さい）

主催：静岡大学人文社会科学部翻訳文化研究会

＊本対談は日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究（B）「ポストメディア時代の翻訳論」（課題番号：15H03199）による研究成果公開イベントです。翻訳文化研究会による『翻訳とアダプテーションの倫理——ジャンルとメディアを越えて』（春風社、2019年2月刊）の出版記念を兼ねています。お二人の対談者と、研究会メンバーの質疑応答もお楽しみ下さい。

